

## 地域調査演習 A

### 地域調査演習 A

2 単位 (選択) 2 年 (前期)

高橋 晋一・教授 / 社会創生学科

**【授業目的】** 地域の本質を把握するためには、的確な視点から問題を設定し、綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である。本実習では、地域に展開する文化現象に注目し、実際の調査(文化人類学・民俗学的なフィールドワーク)を通じてこれらの能力を養成することを目的としている。授業では調査計画の立案に始まり、実際のフィールドワークを行い、その結果得られたデータを整理・分析し、報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する。先行研究の内容を踏まえていなければ、フィールドワークの成果は十分に上がらない。本授業では、特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し、調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する。

**【授業概要】** 文化人類学実習

**【キーワード】** 地域調査, 文化人類学, 民俗学, フィールドワーク

**【先行科目】** [先行科目]

**【関連科目】** 『地域調査演習 A』(0.5), 『地域調査法 IA』(0.5), 『地域調査法 IIA』(0.5)

**【履修上の注意】** 地域調査法 IA(前期)・IIA(後期)では調査の理論と技法を、地域調査演習 A(前期・後期)では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため、通年で受講することが望ましい。また、実習という授業の性格上、受講者数を制限することがある。本授業では、日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定(祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など、さまざまな文化現象の中から一つを選定)し、担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく。調査対象地域と調査テーマについては、受講者と相談の上決定する。授業では、受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう。その中で、講義形式の授業では行いにくい、ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい。

**【到達目標】** 文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。

**【授業計画】**

1. フィールドワークとは
2. 調査の企画 (1) 調査地・調査テーマの検討
3. 調査の企画 (2) 調査地・調査テーマの検討
4. 調査の企画 (3) 調査地・テーマの決定
5. 調査計画の立案 (1) 問題の設定と仮説構成

6. 調査計画の立案 (2) 調査スケジュールの検討
7. 調査計画の立案 (3) 調査班の編成
8. 関連文献の収集 (1) 文献検索・収集
9. 関連文献の収集 (2) 文献リストの作成
10. 関連文献の輪読 (1)
11. 関連文献の輪読 (2)
12. 関連文献の輪読 (3)
13. 予備調査の計画 (1) 実施体制・内容の検討
14. 予備調査の計画 (2) 役割分担の検討
15. 予備調査の実施 (1)
16. 予備調査の実施 (2)

**【成績評価】** 授業への取り組み状況、授業中に課せられるレポートや報告の内容、調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う。

**【再試験】** 行わない。

**【教科書】** 教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

**【参考書】**

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる。
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992 年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1999 年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣、1997 年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究室報告』1~9, 同研究室、1996 年~2009 年

**【授業コンテンツ】** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218818>

**【連絡先】**

⇒ 高橋 (088-656-9486, takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL (オフィスアワー: (前期)水曜日12時~13時)

**【備考】** 本年度開講せず(隔年開講。次回は平成 25 年度開講予定)

## 地域調査演習 A

2 units (selection) 2nd-year(1st semester)

Shinichi Takahashi · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

**Target)** 地域の本質を把握するためには、的確な視点から問題を設定し、綿密な調査を通じて実証を重ねていく作業が不可欠である。本実習では、地域に展開する文化現象に注目し、実際の調査(文化人類学・民俗学的なフィールドワーク)を通じてこれらの能力を養成することを目的としている。授業では調査計画の立案に始まり、実際のフィールドワークを行い、その結果得られたデータを整理・分析し、報告書にまとめあげるまでの過程を「体験的に」学習する。先行研究の内容を踏まえていなければ、フィールドワークの成果は十分に上がらない。本授業では、特定のテーマに関連した文献資料を効率よく収集し、調査研究に生かす手法についてもあわせて紹介する。

**Outline)** 文化人類学実習

**Keyword)** *fieldwork, cultural anthropology, folklore, fieldwork*

**Fundamental Lecture)** [先行科目]

**Relational Lecture)** “地域調査演習 A”(0.5), “地域調査法 IA”(0.5), “地域調査法 IIA”(0.5)

**Notice)** 地域調査法 IA(前期)・IIA(後期)では調査の理論と技法を、地域調査演習 A(前期・後期)では実践と応用を学ぶので、同時受講を前提とする。前期・後期の授業内容は相互に密接な関連を持つため、通年で受講することが望ましい。また、実習という授業の性格上、受講者数を制限することがある。本授業では、日本国内の特定地域をフィールドとして共通の研究テーマを設定(祭り・年中行事・人生儀礼・衣食住・伝説・観光など、さまざまな文化現象の中から一つを選定)し、担当教員と学生が共同で調査研究を行っていく。調査対象地域と調査テーマについては、受講者と相談の上決定する。授業では、受講者を数名ずつのグループに分けて具体的な作業を進めてもらう。その中で、講義形式の授業では行いにくい、ディスカッションやプレゼンテーションの訓練も積むようにしたい。

**Goal)** 文化人類学・民俗学的なフィールドワークを計画・実行し、その結果得られたデータを適切に整理・分析することができる。

**Schedule)**

1. フィールドワークとは
2. 調査の企画(1) 調査地・調査テーマの検討
3. 調査の企画(2) 調査地・調査テーマの検討
4. 調査の企画(3) 調査地・テーマの決定
5. 調査計画の立案(1) 問題の設定と仮説構成

6. 調査計画の立案(2) 調査スケジュールの検討

7. 調査計画の立案(3) 調査班の編成

8. 関連文献の収集(1) 文献検索・収集

9. 関連文献の収集(2) 文献リストの作成

10. 関連文献の輪読(1)

11. 関連文献の輪読(2)

12. 関連文献の輪読(3)

13. 予備調査の計画(1) 実施体制・内容の検討

14. 予備調査の計画(2) 役割分担の検討

15. 予備調査の実施(1)

16. 予備調査の実施(2)

**Evaluation Criteria)** 授業への取り組み状況、授業中に課せられるレポートや報告の内容、調査時における姿勢や分析力をもとに評価を行う。

**Re-evaluation)** 行わない。

**Textbook)** 教科書は使用しない。授業中に随時プリントを配布する。

**Reference)**

- ◇ 主な参考書を以下に挙げる。
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワークの技法』新曜社、2002
- ◇ 佐藤郁哉『フィールドワーク』新曜社、1992年
- ◇ 箕浦康子『フィールドワークの技法と実際』ミネルヴァ書房、1999年
- ◇ ジョン&リン・ロフランド『社会状況の分析』恒星社厚生閣、1997年
- ◇ 高橋晋一編『徳島大学文化人類学研究室報告』1~9, 同研究室、1996年~2009年

**Contents)** <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218818>

**Contact)**

⇒ Takahashi (+81-88-656-9486, [takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp](mailto:takahasi@ias.tokushima-u.ac.jp)) **MAIL** (Office Hour: (前期)水曜日12時~13時)

**Note)** 本年度開講せず(隔年開講。次回は平成25年度開講予定)